


## ジャガイモの栽培から収穫

品川区立伊藤幼稚園（東京都品川区）

[ 5 歳児 ]

≪ 4 歳児 3 月～5 歳児 6 月 ≫ 青字＝経験の意味

幼児の活動	感じる心
<p>① 3 月上旬 種芋植え付け準備（土作り）</p> <p>記名した厚手のビニール袋の底部分に赤玉土を敷き、黒土・肥料を幼児が各自で入れる。 「チューリップの球根の（土の準備）と同じだ」「袋でジャガイモを育てるんだね」 <span style="color: blue;">&lt; 先行経験を思い出す・袋での栽培への興味・きっかけ &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球根植えの準備と同じだ。やり方なら、知っているよ。</li> <li>・プランターとは違うな。自分の袋に植えるのか。</li> </ul>
<p>② 3 月中旬 ジャガイモの種芋植え</p> <p>種芋を見て「ジャガイモって種じゃないの?」「球根じゃないの?」「ジャガイモってジャガイモからできるの?」と興味をもつ。保育者が「種芋を半分に分けて、切り口に灰を付けて植えるよ」と知らせると、「半分に分けても大丈夫なの?」「どうして灰を付けるの?」と問われる。保育者が「種芋が病気になるようにね」と答えると、「へえーっ!」と驚く。種芋に灰を付ける情報は、即時に学級全体に広まる。 <span style="color: blue;">&lt; 種芋との出会い・驚き・心配・不安・疑問・予想・知識の伝達(保育者の言葉) &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャガイモを植えるの!?</li> <li>・半分に切ったら、傷んだり腐ったり枯れたりしないの?</li> <li>・大きいままで植えた方が、いいのにな。できるジャガイモの数は、減らないの?</li> <li>・友達にも知らせよう。</li> </ul>
<p>③ 3 月下旬 ジャガイモの発芽の観察</p> <p>雨上がりの朝、「昨日の夜、雨がいっぱい降ったから、水遣りはしなくても大丈夫だよ」と話しながらも、ジャガイモの様子が気になり、様子を見に行く。「あっ、僕の芽が出た!」「いいな、早く芽が出ないかな」「葉っぱが紫だよ」「緑じゃないね」「黒っぽい色にも見える」「面白い形だね」「ちゃんと真ん中に埋めたのに、どうしてこんな隅っこから出て来たんだろう?」「先生、鉄棒に近い所の袋からは、みんな芽が出てるよ」と気付いた幼児に「あら、不思議…どうしてかな?」と保育者がつぶやく。幼児は「鉄棒の所が暖かいんじゃない?」「よく日が当たってるかも?」と考えを出す。 <span style="color: blue;">&lt; 発芽の喜び・友達との比較・心配・不安・疑問・予想・試し &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やったあ!! 芽が出たよ。</li> <li>・アサガオやオクラ、チューリップとは、色も形も違う芽だ。</li> <li>・このままでも大きくなるのかな?大丈夫かな?</li> <li>・同じ日に植えたのに、芽の出方が違うのはなぜだろう?</li> </ul>
<p>④ 4 月上旬 進級時、全員分の袋の種芋の発芽や生長を確認</p> <p>「うわっ、こんなに大きくなって!」「やった!僕のがいっぱい出ている」「〇〇君も芽が出てよかったね」と喜ぶ幼児に、保育者は「よかったねえ。お日様の力は、さすがだね」と頷く。 <span style="color: blue;">&lt; 生長の喜び・確認・安心・期待 &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きくなってよ!嬉しいな。</li> <li>・もつともつと大きくなれないかな。</li> </ul>
<p>⑤ 5 月中旬 ジャガイモのつぼみの観察</p> <p>連休明け、ジャガイモの葉が生い茂る。水遣りの際、つぼみを見つけ観察する。「ジャガイモって、紫色の花が咲くんだね、知らなかった!」幼児の言葉に保育者が「そうだね」と頷く。 「白い花かと思ってた。だって、ジャガイモって（切り口が）白いでしょ?」「僕は、黄色かな?って、思っていたよ」など幼児同士で話す。 <span style="color: blue;">&lt; つぼみへの喜び・予測・驚き・確認 &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随分、大きくなったな。</li> <li>・あっ、つぼみだ!</li> <li>・ジャガイモの食べるころと、花の色は違うのか。</li> </ul>
<p>⑥ 5 月下旬 ジャガイモの花の観察</p> <p>「ジャガイモの花って、小さい花がくっついてるみたい」「花びらに白い点々の模様があるよ」「先っぽは白いね」「どんな匂いがするのかな?」「もうすぐジャガイモが食べられるね」「土の中ではどうなっているのかな?」「大きくなっているといいね」など、期待を寄せる。 <span style="color: blue;">&lt; 細かい観察・予測・期待 &gt;</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わあ、かわいいなあ!</li> <li>・花が咲いたから、次は実だ。楽しみだね。</li> <li>・いくつとれるかな?</li> </ul>
<p>⑦ 6 月中旬 保育者が試しに抜いた、ジャガイモの観察</p> <p>黄色く葉が変色し萎れたジャガイモがいくつかあることに、数名の幼児が気付く。「先生、大変!ジャガイモが枯れちゃったよ」その言葉を聞き、学級の幼児も集まる。保育者は「枯れたみたいに見えるね、心配だね。袋の中はどうなっているのかな…試しに抜いてみようか?」と尋ねる。幼児は「大丈夫かな?」「見たい、見たい」とのぞき込む。保育者が株を引き抜くと、「あっ、ジャガイモだ!」「(根と芋が)つながってる!」「この黒いのは何?」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ!どうしよう!?</li> <li>・大丈夫?様子を見たいな。</li> <li>・あっ、ジャガイモだ!</li> <li>・黒いぶよぶよした、べっちゃんこなものは、何だろう?</li> <li>・ええっ、種芋!?</li> </ul>

<p>「わあ、ぶよぶよ」「ぺっちゃんこだ」保育者は「これは、みんなが植えた『種芋』だよ」と指で示す。幼児は「こんなふうにぺっちゃんこになっちゃうんだね」と驚く。「葉が黄色くなって萎れて下を向いたら『掘ってちょうだい』っていう合図だよ」と知らせる。          &lt;驚き・心配・不安・予測・試し・喜び・驚き・安心・自分のジャガイモへの愛情・収穫への期待&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕のジャガイモ、葉っぱが緑色だから、もっともっと大きくなるぞ！楽しみな。</li> </ul>
<p><b>⑧ 6月下旬 ジャガイモの収穫</b>          幼児は自分の袋のジャガイモを掘る。「見て見て！」「わっ、でっかい！」(手探りしながら)「まだあるかも…あった！」幼児は土を掻き分けて探す。「りす組の時の芋掘り遠足みたいだね」と顔を見合わせて笑う。「種芋も見つけたよ」「ぺっちゃんこだったね」自分が植えた種芋の変わり果てた様子も観察する。最後に黒土の山まで袋を引き摺り、ひっくり返す。もう無いだろうなという予想に反し、必ずと言ってよいほど奥深い部分から2～3個ジャガイモが転がり落ちて来る様子に歓声をあげる。          &lt;確認・収穫の喜び・種芋への思い・友達との比較&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉っぱが黄色くなったから、掘ってみよう。</li> <li>・わあ、ジャガイモだ!</li> <li>・種芋は、ぺっちゃんこだ。</li> <li>・まだ(袋の中に)あったの!?</li> <li>・全部でいくつあった?</li> </ul>
<p><b>⑨ 6月下旬 収穫した当日、掘りたてのジャガイモを塩で茹でて試食</b>          「ジャガイモ食べたいな」「食べようよ」保育者は「ちっちゃいお芋を集めて洗って食べちゃおう」と提案する。幼児はジャガイモを大きい順に並べ始め、手のひらに入る大きさのジャガイモを洗う。主事室で塩茹でしたジャガイモを食べる。「あつあつだね」「おいしいね」と喜ぶ。4歳児クラスにも分けに行く。          &lt;大きさの比較・気付き・味わい&gt;</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きさを比べてみよう。</li> <li>・洗ったら皮まで剥けちゃったよ。</li> <li>・掘りたてはおいしいね。</li> </ul>

### 《分析・考察》

- ・幼児は、4歳児入園当初のアサガオやオクラの種蒔きに始まり、チューリップの球根植えを経験し、進級直前の時期にジャガイモの種芋植えを実施した。幼児にとって、①種芋植えつけへの新鮮な驚き②自分の名前が記入されている袋での栽培③進級以降も継続する活動などにより、栽培活動への一層の興味関心が高まると考えられる。
- ・ジャガイモを個人で育てることで愛着が湧き、親しみをもって世話をし、観察している。
- ・ジャガイモは、生長も早く比較的病気になりにくい野菜である。学級でも枯渇や失敗もなく、土作りから収穫までの一連の活動を継続できるので、幼児に適した教材である。
- ・幼児にとって、ジャガイモの発芽の喜びは格別である。発芽により、さらに栽培活動への意欲が湧く。幼児は水遣りの際、雨上がりなどの土の湿り具合や日なたや日陰の差異にも気付き、日の当たる場所を替えて試している。また、友達ジャガイモと自分のものとの生育を比較し観察している。このような幼児の姿を「感じる心・考える力」と捉え「科学する心」へのつながりが考えられる。
- ・幼児なりにジャガイモの花の色は白や黄色と予想するが、紫色の花が咲き、驚く。予想外の経過により、細やかに観察する姿が見られる。花が咲くと実が生ることを知っていることから、開花以降、地上部分から地下部分へと興味関心が移行する。生長の喜びや感動が支えとなり、幼児の「感じる心・考える力」は「科学する心」へとつながると考える。

### みどころ

4歳児が進級を前にした3月からジャガイモ栽培をすることは、5歳児になる期待をさらに高めることにつながります。「ジャガイモって、種じゃないの?」「球根じゃないの?」「ジャガイモってジャガイモからできるの?」という疑問や不思議を考え合うことで、種芋から育てる特徴を知ったり今までの栽培活動も振り返ったりして意欲的に取り組めることが、この事例からも伝わってきます。